

0歳から18歳までの継ぎ目のない共育を実現させよう！

前回のおたよりでは、川根中学、三ツ星学園・光の森学園後期課程、川根高校の先生方による「探究学習」をテーマにした合同研修会の様子を紹介しました。

今回は、三ツ星学園と光の森学園で始まっている特色ある「探究学習」の取組から、シームレスな共育について考えてみたいと思います。

「寄りかかる」から「自分で立つ」へ

この町には、子どもたちの学びを充実させる目的で学校と地域をつなげてくださるCSスタッフがいます。三ツ星学園の後期課程の生徒たちは数年前から、CSスタッフのコーディネートで役場の職員や地域の皆様と一緒に探究学習のテーマを決めてきました。

まずはざっくりと自分たち（7・8・9年生の縦割りグループ）で解決したい課題を見つけます。例えば「川根の特産品を使ったスイーツを作りたい」「観光客を増やしたい」等です。その課題を専門家からいただいたアドバイスを基に具体的なテーマにつなげ、探究学習を行ってきました。

今年も楽しみに三ツ星学園にお邪魔して、子どもたちの様子を参観しました。すると、これまでとは大きな違う子どもたちの様子が観られました。多くのグループが既に具体的なテーマを決めた上で専門家からのアドバイスを聴いているのです。あるグループでは欲しい情報を積極的に訊いていました。

また、昨年と同じテーマで取り組んでいるグループもありました。昨年は先輩に寄りかって学んでいた子が、今年は話し合いの中心となっていました。シームレスな三ツ星学園の探究学習の進化を目の当たりにしてとてもうれしくなりました。

「子どもと地域・企業の足し算」ではなく「子どもと地域・企業の掛け算」

前回の「教育長だより」で、次期学指導要領の中のキーワードの一つが「『好き』を育み『得意』を伸ばす」だとお伝えしました。光の森学園の総合的な学習の時間では正に『好き』を育み『得意』を伸ばす取組が行われています。

多くの中学校では中学二年生を対象にした職業体験を実施していますが、光の森学園ではそのあり様をがらりと変えました。職業体験を子どもたちの探究のきっかけにしたのです。

子どもたちが企業や地域の皆さんと取り組んでいる探究学習は多岐に渡っています。それらの全ては子どもの「好き」から始まり企業・地域との掛け算で生まれる全く新しいモノやコトなのです。

7月16日、光の森学園では、子どもたちと関わってくださっている企業・地域の皆様に集まっていただき、現在の進捗を語り合う会を開催しました。皆さん笑顔で子どもたちとの取組を語ってくださいました。その話に耳を傾けていた皆さんも笑顔でした。

なぜ、子どもたちは総合的な学習の時間が待ち遠しく、時間外でも生き生きと学んでいるのだろう？

その答えがわかった気がしました。



第6号も最後まで読んでいただきありがとうございました。これからも川根本町のシームレスな共育について、お伝えしていきたいと思います。

ご意見ご感想をお聞かせください。

E-mail :

k-ishihara@town.kawanehon.lg.jp